

BOX 便り

『君が部活で大切にしているのは何？』

『君にとって体育会に所属している意味とは？』

■一年生

私は部活をするうえでフライトを楽しむことを大切にしてきました。入学してしばらくたった頃、偶然もらった航空部のビラの「空を飛ぶ部活」というたい文句に興味を惹かれて体験搭乗に行きました。あの時感じた離陸の瞬間の興奮と初めて見た地上 400mの景色は忘れられません。また、去年クルーとして関関同立戦に参加し、そこで初めて競技フライトを見ました。合宿のフライトとは違い、選手たちが自由に大空をソアリングしてゴールを目指す姿がとても印象的で、いつかは自分もあのようにフライトしてみたいと強い憧れをもちました。このような経験から、部活動で困難なことがあったり、操縦がなかなか上達しないときはフライトを楽しむことを考えて頑張ろうと思っています。

体育会に所属しているということは航空部が練習や大会に参加するときに同志社大学の名前を背負うことになり、それが大会で勝ちたいという気持ちや活動への責任感につながると思います。また、部活動では自大学はもちろん他大学の部員とも協力して合宿などを行うため、周りの状況を見る力や礼儀が身に付き人間的な部分で成長できると感じています。これからも 80 年間続いた体育会航空部の歴史を絶やさぬよう紡いでいきたいと思っています。

■一年生

私が部活をするにあたって大切にしていることは「積極的に」ということです。これまで私はどちらかと言うと消極的で受け身になりがちでしたので、大学ではそんな自分を変えようと思い、強く意識していることです。例えば、分からないこ

とは積極的に聞く、合宿では積極的にランウェイクワークをする、といったことです。執筆している時点では、まもなく学年が上がるというところで、まだ指示された仕事をしている状態ですので、次なる段階として周りの状況を見て積極的に指示ができるようになることを目標としています。

体育会に所属している意味、私は「他ではできない経験をする」ためだと思っています。他ではできない経験というと、一つはグライダースポーツそのもののことを指します。もう一つは、組織の運営や他大学の学生との交流といったことです。特に後者は体育会に所属しているからこそできるものであり、この経験は社会人になってからも役に立つものと思います。

■二年生

今回「部員は何を大切にしているのか」「体育会に所属する意味とは何か」というテーマをいだけいて、この文章を書く。航空部の部員として、何を大切にすべきなのだろうか。それは、目的と効果を常に考え、最も合理的なアプローチで、素早く行動する、ということにあると私は考える。およそスポーツというものは、程度の差こそあれ多少の危険性を伴うが、こと航空部という組織においては、日常のあらゆる場面でそれを他にもまして強く意識すべきなのではないだろうか。いざわれわれが危機に瀕したとき、合理的判断と対処速度の両立こそが最も強く求められるであろう。あらゆる所に、また自分自身に潜む硬直した権威主義、前例主義を打破し、自身の周囲そして自分自身を徹底的に疑ってみることが、航空部員として日々行うべきトレーニングだと感じる。

体育会に所属している意味も、そこにあるので

はないだろうか。「体育会」はときとして非合理的、結果よりも過程を重視する、というイメージで捉えられることもある。しかし「強い」部活は必ずどこかに合理精神を持っているはずだ。一見非合理に見える活動でも、実はそうでないということもままある。体育会に所属し、別組織と身近に接することで得られる知見があるのではないか。知性を軸とし、しかしそれに溺れることなく(本来の意味での反知性主義的視点をも保持しつつ)自分の取るべきアクションを決定する。大上段に構えたことを書いたが、いまのところ私は全く不徹底である。不勉強であり、また知を裏付けるだけの経験も全く不足している。いま書いたようなことを実現できる人間になるには長い時間がかかるだろうが、しかし行わねばならない。

■二年生

「現在の部員は何を大切に部活をしているのか？」と問われまして、「エアマンシップ」の一言に尽きると思います。僕の考えている「エアマンシップ」とは訓練で培った正しい技量と判断能力をフルに活かし、常に安全を第一に行動する意識と責任感を持っている空に携わる人々の精神のことです。我々はこの考えを尤もに日々の学科や訓練飛行に勤しんでいます。

次に「体育会に所属している意味とは？」と問われまして、今度は「スポーツマンシップ」の一言に尽きると思っています。それは、常に競技会で優秀な成績を収めるための努力を行い、不正な行為はせず、正々堂々と腕を競い合う事だと考えております。

僕は「体育会航空部」とは、「体育会__部」の部分で「スポーツマンシップ」を果たし、「航空」の

部分で「エアマンシップ」を遵守する組織だと思っており、この2つを持ち合わせていることが『体育会な航空部』の価値だと感じております。

■三年生

私が部活を続けてきた、さらに、続けて行く上で大切にしていることは、「飛ぶこと」と「有限の時間」です。航空部という部活で飛ぶことが重要なのは至極、当たり前のことですが、様々な仕事がある故か、このことの大切さがどこか曖昧になってしまっている場面もあるかと思っております、敢えて挙げさせていただきます。また、18歳からの4年間という限られた貴重な時間において活動をしている訳ですから、後悔しないよう常に良い結果を求めて活動すべきであると考えています。最も、私がこのようなことを考えるようになった時期は少し遅すぎたと言えるかもしれません。

そして、航空部が体育会である意味は、規律を守り安全に活動を行うというところに帰結すると、私なりに考えています。グライダーというスポーツが他のスポーツと比べた時にどれほどのリスクがあるのかは、正確には計りかねますが、ある一定の程度以上のリスクを持っていることは確かだと思います。このようなスポーツを楽しむ以上は、体育会として規律を守り、常に安全を心がけて活動を行うべきであると考えています。

■三年生

航空部に入って3年が過ぎました。長いようであっという間に過ぎてしまったように思います。その間、様々な出来事がありました。そんな中で僕が大切にしていることは、「続ける」ということです。何事も続けるということは難しいことです。

それは、クラブ活動も例外ではないと思います。辛い時にやめる理由を考えるのは簡単です。しかし、続ける理由を考えるのは難しいです。何事も続ける価値があるかどうかなんて最後まで続けることが出来て初めて分かるものだと思います。体育会に所属していると様々なスポーツにおける一流選手と触れ合う機会があります。彼らも続けるということを行ってきたからこそ一流になれたのだと思います。そういった選手たちの存在は非常に励みになります。残すところ1年となりましたが、続けてよかったと思えるように努力していきたいと思います。

■四年生

航空部に入り、航空部員として活動してもうすぐ4年になるうとしています。思えば同志社大学に入学する前に航空部の事を知り、空を飛ぶ部活か…面白そうだなと思って入部したのが始まりでした。初めは何となく、空を飛ぶのが楽しそうだと思って入りましたが、楽しむところは楽しむ、厳しいところは厳しいといったメリハリをつけて活動していて、ただ楽しいだけではないなと思ったのが入部してからの印象でした。先輩方を見ているとそれぞれ皆目標を持っていて、それに向かって真剣に取り組んでいました。さらに定期的に集まってミーティングをし、各人それぞれ仕事がありそれを報告する、といった組織立った形態が、なるほどこれが体育会なのかと感じたのを覚えています。

上級生になった今、体育会にいてことで人間的成長を少しはできたかなと思います。これは勿論まだまだ不十分であり、これからも学ぶことはたくさんあります。さらなる成長に向けて努力しつ

つ、体育会らしい組織社会、自分の仕事をこなす様子、目標に向かって真剣に取り組んでいく姿を後輩に見せていき、自分だけでなく下級生にもこの部に入ってよかったと思ってもらえるよう、部員生活もあと僅かですが日々勤しんでいけたらと思います。

■四年生

私自身、これまでの活動の中で大事にして来た事は目標を持ってそれに向けてこれから何をしていけば良いのか、今どうあるべきなのかを常に考えて行動することを大切にしてきました。そのおかげなのか、運なのか定かではありませんが、戦績は良かった。しかし、目標というのは基本的に自分自身の目標であったので自己中心的だと言われ続けており、それだけでは足りなかった。このことから、大切であることは自分自身の目標と、部組織としての目標やあるべき姿を見据えて行動するということが大切にするべきことであると今になって思っているところです。

体育会とサークルの違いについて幾度となく考えさせられる4年間でした。結局のところ、活動自体にはさほど差はないが、社会に出て貢献できる人間かどうか、役に立つ人間かどうかは二者の差異であると考えています。役に立てる人間というのは、自分自身を成長させるだけではなく、後輩や同期や先輩とともに成長させて、組織でみてトータルでプラスを出せる人間であると考えます。